

## いしかわ

58

2015 Spring

## NPO ニュース

## 特集 つながる秘訣 ~NPOが成果をあげるために~

## ●教えて!

i-ねっとのあおみさん



## ●いしかわのNPO

- ◆一般社団法人百笑の郷
- ◆NPO法人七尾鹿島手をつなぐ育成会
- インフォメーション

## 収益事業を行っていない場合は法人住民税(均等割)の減免申請をお忘れなく!

## 「法人住民税(均等割)」とは?

「法人住民税(均等割)」とは 法人の所得や活動の有無にかかわらず、存在するだけで課せられる税金です。

## 減免になるのはどのような団体ですか?

寄付金や会費のみで運営している団体や、全く活動を行っていない団体、法人税法上の収益事業を行わない団体などです。

## 法人税法上の収益事業とは?

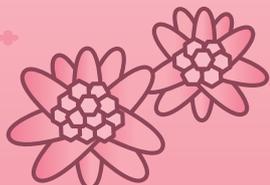
物品販売等の政令で定める事業で継続して事業所を設けて行われるものをいいます。

## どのように手続きをすればいいですか?

県、市町へ減免申請手続きをすることで減免を受けられます。この手続きは、各法人の決算期に関係なく毎年4月ごろまでに減免申請書を提出する必要があります。

## 〔申請時の注意〕

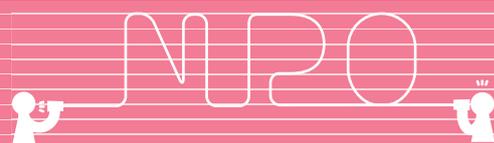
- 県と市町それぞれに申請が必要です。
- 自治体によって提出期限は異なります。
- 設立した時だけでなく、毎年申請が必要です。



「あいむ」は石川県NPO活動支援センターの愛称です。「あいむ」にちなみ、「i」と「m」という文字と、石川県の「石」の文字が、拳をあげて自らの意思を持って行動する市民をイメージしています。

# つながる秘訣

～NPOが成果をあげるために～



成果をあげるNPOは、課題解決のために得意分野を持つ様々な団体とつながることで、より多くの課題を解決しています。そこで今回の特集では「つながり」を生かしながら地域の課題を解決しているNPO取材し、**どうすれば上手く他の団体とつながることができるのか**、その秘訣を紹介します。

## 秘訣 ① 「自分達だけで解決するのは難しい」と気付く



自分達だけで活動する場合、その理念や事業内容を他人に理解してもらう必要がなく、メンバー間の意思疎通も容易です。その反面、新たな協力者や変わったアイデアが生まれにくく、継続的に成果を上げにくくなってしまいます。まずは「自分達の団体だけでは課題を解決するのは難しい」ということに気付き、**外部の団体と関わる機会を意識的に増やす**ことが大切です。他の団体の勉強会や活動報告会などに参加することで、多様な考え方や新しい取組事例に触れることができ、“つながり”も自然と生まれてきます。

## 秘訣 ② キーパーソンとなる人の信頼を得る



様々な団体と連携するには、各団体の関係者の中で発言力・影響力のある人を見つけ、信頼を得ることが大切です。そのためには**キーパーソンが活動する地域や団体の集まりに足しげく通い、相手の話をしっかり聞く**ことが必要です。また自分達の活動をしっかり伝えるため、日頃から活動の記録を残し、整理しておくことも大切です。

## 秘訣 ③ 小さな成功を積み重ねて継続すること



最初から大きな課題に取り組もうとした場合、課題解決のノウハウが足りなかったり、協力してくれる人が集まらず失敗してしまう可能性が高くなります。もし大きな課題に挑戦し、失敗してしまうと協力してくれた人達の信頼を失い“つながり”を取り戻すには時間がかかってしまいます。まずは小さな成功を少しずつ積み重ね、課題解決のノウハウを蓄積し、協力してくれる人を徐々に増やしていくことが大切です。また、その過程で様々なキーパーソンから信頼を得ることができれば、彼らが一堂に集まる場を設けることで“つながり”が深まり、課題解決の取組がより進みやすくなります。

## 秘訣 ④ 相互にプラスとなることを意識する



一方から支援を受けるだけの関係は長続きしません。“つながり”を継続させるためには知識やノウハウを積極的に公開するなど**互いに有益な協力関係を構築したり**、時に自らは後方支援に回り、連携している団体に花を持たせるような配慮も必要になってきます。

## 地域の魅力を発掘

# NPO法人くくのち

NPO法人くくのちは、過疎、高齢化により、耕作放棄、竹森林荒廃が進んでいる金沢市東原町の課題を解決するため、東原町以外に住むメンバーが中心になって結成。大学や企業との連携により様々な事業を実施しています。

### 【大学・企業の専門性を活かす】

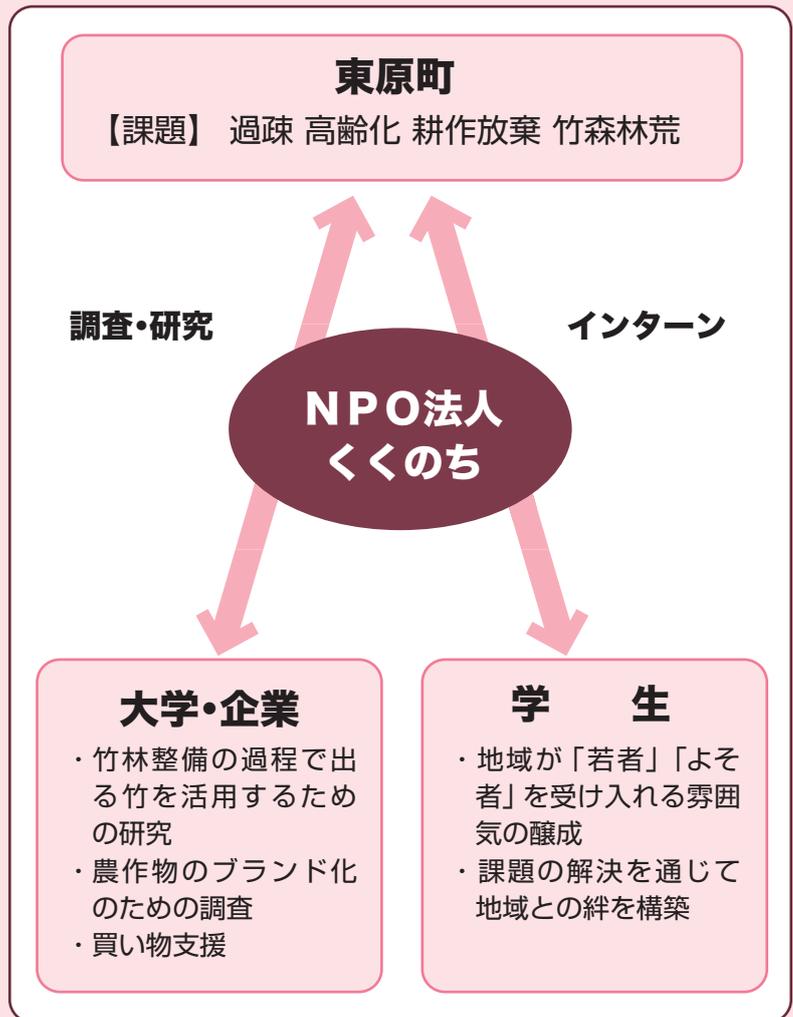
荒れた竹林を整備する過程で余った竹を飼料として加工する方法や、耕作放棄地に植えたひまわりの種から油を搾って燃料に使う方法など里山の資源を有効活用するため、大学に研究を依頼しています。また企業が保有する人工衛星のデータを提供してもらい、それを分析することで東原のお米はタンパク質の含有量が低い美味しいものだということがわかりました。その調査結果を受けて、現在では「東原米」として販売されるようになりました。さらに住民から「徒歩圏内にスーパーがないため、買い物が不安」という声があったことから、企業と連携して商品を当法人が設置した店舗「マチオモイ」に届ける仕組みを作りました。このように**大学・企業と連携し、その専門性を活かすことで地域の魅力や価値の発掘や住民の困り事の解決**につながりました。

### 【学生を地域に呼び込む】

地域に若者を受け入れる風土をつくるための第一歩として、学生を里山インターンシップ生として受け入れることを決めました。その際「若者」「よそ者」である学生をなぜ受け入れるのかについて地域住民が納得できるように、**毎月、定例会を開き「将来も東原町で40世帯が暮らす」という目標を全員が共有**することで円滑に実施することができました。

またインターンシップ生を募集する際は**学生とのネットワークをもったキーパーソンを巻き込む**ことで全国から大学生が集まり、「地域MAP作り」「ドライ野菜の製品化」「空き家調査」といった事業を行うことができました。その過程で地域住民と学生との間に絆が生まれ、インターンシップ後も継続的に東原町を訪れる学生や移住する学生

が出てくるようになりました。また地域住民側からも移住希望者を円滑に受け入れられるような空き家の仲介システムを考えるようになりました。



#### ■プロフィール■

#### 特定非営利活動法人くくのち

活動場所 〒920-0131 石川県金沢市東原町  
ホームページ <http://www.kukunochi.org/>

## 「子育て」からひろがる絆

# NPO法人おやこの広場あさがお

NPO法人おやこの広場あさがおは、白山市内にある子育て支援施設「親子よろこびの広場あさがお」の運営を中心に、子育て世帯へのサポートや男性の育児グループの立ち上げ、妊婦さん向けの講座の企画などを行っており、企業や他のNPOと連携しながら「地域で子どもを育てる」活動を行っています。

## 【地元商店街や企業と信頼関係をつくる】

NPO法人の立ち上げ当初から商店街との信頼関係構築を心掛けており、**商店街の理事長と一緒にお店一軒一軒を回って活動への協力を求めてきました。**その結果、子どもたちが商店街を巡るイベント「商店街のおじいちゃんやおばあちゃんに会おう」での協力やクリスマス会での協賛品の提供など様々な面でサポートしてもらえるようになりました。また地元商店街以外の企業からも支援を受けており、子育て支援プログラムを実施する際の会場としてハウスメーカーのモデルハウス

を借りることができました。これまでは公共施設を利用することが多く「会議室の机だとリラックスできない」「もっと活動の場を広げたい」といった思いがありましたが企業のモデルハウスを利用することで友達の家にいるような雰囲気を演出できて参加者の満足度が高まるだけでなく、公共施設以外の多様な場所で活動するきっかけとなりました。また企業側にとってもモデルハウスのよさを自然と伝える場となり**互いに有益な協力関係を構築することができました。**

## 【他のNPOとも協力】

子ども向けイベントのノウハウを持った総合型地域スポーツクラブを運営するNPOと、子育て世帯への情報発信力を持ったおやこの広場あさがおが**それぞれの強みを活かして一緒に体験型のイベントを開催したり**、「おやこの広場あさがお」を利用する父親たちが自主的に参画する組織をつくる際、父親の育児参加の分野で**全国的に活躍しているNPO法人からアドバイザーを招く**など積極的に外部との交流を持つことで活動の幅が広がり、活動に参加する人の満足度が高まりました。



### ■プロフィール■

認定NPO(特定非営利活動)法人  
おやこの広場あさがお

活動場所 〒924-0871 石川県白山市西新町170番地1  
松任公民館1階

TEL・FAX:076-275-8677

ホームページ <http://oyako-asagao.com/>

# 「教えて! i-ねっとのあおみさん」



非営利団体のためのQ&A シリーズ 18

いしかわ市民活動ネットワークセンター 副理事長/事務局長 青海 康男

最近、インターネットを使って「寄付金」を集めた話を聞いたり、災害ボランティアの人たちが街頭で寄付金を集めているのを見かけました。そもそも寄付金ってなんですか? また、どうすれば寄付金が集まりますか?

寄付金は「働いて得るお金」や「税金のように強制的に集まるお金」ではなく、「任意で集まるお金」です。「もらう立場」の人も「出す立場」に立って考えると、寄付を集めるには何が必要となるかがより、理解できます。



例えば、スーパーのレジ等によくある「募金箱」に書かれた説明を読むと、それは誰に対して、何のために使われる「募金」かわかります。その使われ方に共感できるから「このお金も使ってください」という気持ちが湧いて募金行為に移れるのです。

例えばクラウドファンディングのように、実現したい活動のために目標金額を設定して、インターネットで寄付金を募る場合も、それは誰に対して、何のために使われるお金であるかが詳しくわかるようになっています。もちろんそれを見た不特定多数が対象ではありますが、この募金の大きな力は「この団体知ってるぞ。よし、協力しよう!」という、普段の知り合いが、この仕組みを通して「寄付者」へと団体との関係を変えるきっかけにもなれることです。

これと似た仕組みを携帯電話会社もはじめました。手持ちの携帯から専用アプリをダウンロードし、共感のできる団体のチラシやポスターに携帯でかざすだけで、電話料金と一緒に団体への寄付金として引き落とされる「かざして募金」というものです。

いずれにせよ、団体がお金を必要とする活動が、どれだけ多くの人々の共感を得られるか、それには何故お金が必要かという根拠が必要にもなりますし、寄付をしやすい仕組みも必要です。そしてなによりも寄付は、その団体に対してではなく、その団体の個人を知っているか、知らないか、が寄付行為のハードルをぐんと低いものにします。つまり、寄付は団体を構成している個人の魅力への投資であるとも言えるのです。

そのプロジェクトや事業にいくら寄付が集まったか! それは何に使われたか! このような情報まで寄付金募集と一緒に公開することが、まだまだ理解不足の日本の寄付社会を、寄付が当たり前の社会へと変えていく、小さな一歩となるように思います。

## 募金箱

店舗のレジのところなどに箱が設置されていたり、街頭で呼びかけたりして募金箱を利用して資金をあつめるものです。箱に募金先の団体名やプロジェクト名が書かれているのが一般的です。団体の活動内容や資金の使用目的を十分確認して募金しましょう。

## クラウドファンディング

市民活動団体が実現したいプロジェクトのために多数の人から寄付を集めるしくみ。期間内に目標金額に達成しなければ、それまでに集まったお金はすべて寄付者に返却されます。(FAAVO、READYFOR? など)

## かざして募金

スマートフォンの専用アプリをダウンロードし、そこに掲載されている各団体のポスターや画像にスマートフォンをかざすと募金ができるものです。実施している携帯電話会社のスマートフォンからは電話料金と一緒に引き落とされ、それ以外の機種からはカード決済となります。

## 黄色いレシート

あるスーパーマーケットチェーンが行っているプログラム。毎月 11 日に発行される黄色いレシートをお店にある各団体の回収ボックスに入れるとレシート記載金額の 1% がその団体に寄付されます。

## クリック募金

資金を必要としている NPO や NGO を紹介しているポータルサイトから各団体ページの「応援する」のボタンをクリックするか、サポート企業への「いいね!」をクリックすると、ポイントに応じて支援金が団体側に届けられます。(gooddo.jp、ekkor.jp、dee.jp など)

出典

さいたま市市民活動サポートセンター  
情報誌「おーぷん」



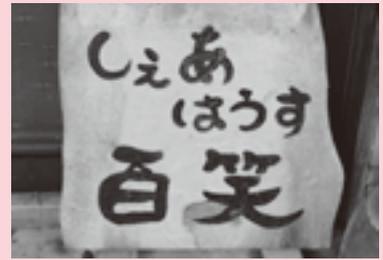
### 一般社団法人百笑の郷

代表者 林 昌則

住所:加賀市山中温泉杉水町八33

HP <http://hyaku-warai.jp/>

問い合わせはホームページにある「お問い合わせ」からお願いします。



山中温泉から車で30分、我谷ダム、九谷ダムを越えたと山奥に「百笑の郷」があります。住民は移住してきた私たちだけ…。テレビは映らず、携帯電話も使えず、行政からは町として認めてもらえないため郵便番号もなく、行政サービスも受けられない、ないないづくしの何もないところです。

便利なものは何もない静かな山村ですが、きれいな水があり、おいしい空気があり、汚れていない土があり生きていくために必要なものがすべてあるところです。また、この地区は国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された赤瓦と煙出しの古民家と美しい景観、忘れかけた日本の原風景がここにあります。

この豊かな自然の中で百の笑顔があふれるような村にしたい！そんな気持ちをこめて「社団法人百笑の郷」を立ち上げました。環境に負荷をかけず、食べ物はできる限り自分たちで作り、お日様のリズムに合わせた生活をしています。この自然を生かして子どもからお年寄りまでいろんな方がここで様々な体験、合宿など行い多くの人から喜ばれる場を提供しています。

そしてうつ病やニート、引きこもりなど様々な問題をかかえた青少年たちの支援をしています。彼らはみな、純粋で真面目ないい子ばかりです。純粋な若者は今の世の中に希望が持てないと社会への反抗として引きこもっているように私には思えます。私は彼らを治そうとせずそのままを受け入れ、愛情を持って接しています。私たち家族と衣食住を共にし、体を動かし、人とのかわりをもつことで多くの人たちは元気になり社会に出て行きます。



そして昨年から引きこもり君たちだけで生活するシェアハウスをつくりました。今までは私たちがお世話していましたが、今度は引きこもり君たちだけで生活します。自分のことだけでなく人のことも考えて生活しないとみんなと生活することができないのです。でも共同で生活することで人を思いやる気持ちがでてくるのです。人間は本当にうまくできています。今は3人がシェアハウスで生活していますがみんな楽しく生活しています。



昨年5月にこのシェアハウスのドキュメンタリーがテレビ放送されたことを機にニート、引きこもりだけでなく、切実な相談がたくさんくるようになりました…みなさんシェアハウスの入居を希望しますが、定員がいっぱいで受け入れることが出来ず、新しくシェアハウスを作るお金もありませんでした。そこで友人がインターネットを利用して資金を集める「クラウドファンディング」を立ちあげてくれ、資金100万円の支援をお願いしたところ目標の金額があつまり、今年新しいシェアハウスがオープンさせることができます。さらに、私が学んだ「青年塾」の上甲晃塾長から応援してもらい、来年に向けて古民家を改修した引きこもりのシェアハウスを作ることになりました。ここではゲストハウスも併設し、引きこもり君の就労支援もできるようしていきます。

今、引きこもりは全国に70万人いると言われていますが、私たちが二つのシェアハウスを作っても7人ほどしか受け入れません。私のできることは本当に小さい小さいことです。でも私たちは引きこもり君の力を借りて限界集落を活性化させたいと思っています。「どこにでもある限界集落を、どこにでもいるニート引きこもり君たち」が、限界集落で生活し、活性化させ、自分たちも元気になり社会復帰できる。そんな夢のある活動を行い、今の社会の大きな問題二つを解決するひとつの案を全国に発信していきたいと思っています。

## 特定非営利活動法人七尾鹿島手をつなぐ育成会

会長 出村範彦

### 活動のきっかけ

#### 「親の会が原点」

発足したのが昭和32年12月。知的に障がいのある子どもたちの親20人が立ち上がって福祉運動を始めたのがきっかけです。「手をつなぐ親の会」と呼んだこともあります。この運動が、地域の教育機関や福祉施設の充実につながりました。支えてくださる人たちの輪も広がってきました。現在の正会員は131人、賛助会員は50人。今日における本人や親の多様な福祉ニーズの高まりを受け、法人格のある団体活動をめざして昨年8月、NPO法人を設立しました。

### 活 動 内 容

#### 「『ほうぷ』で手をつなぐ」

私たちの視点は、地域の福祉法人等と連携しながら、充足していない谷間や隙間の分野を補完すること。なので、12月から障害福祉サービス事業所の指定を受け、障がいのある子どもの児童発達支援・放課後等デイサービスを提供しています。事業所の名称は、「ほうぷこどもの家」。もう一つは、「相談支援事業所ほうぷ」です。この2つの事業は、緒に就いたばかりで、創業から守成への試練を迎えています。それでも、本人や親の切実な願いに応えたいと思います。素足で土を踏むように…。子どもたちの笑顔にほっとします。時に、励みになり、救われます。

### 今 後 の 展 望

#### 「一粒の椎の実から」

発足時の子どもたちも高齢期を迎えました。親亡き後という大きな課題があります。私たちの願いは、障がいがあっても、人としての尊厳をもって人格と個性が尊重され、自立した個人としてその人らしく、安心して暮らすための「福祉でまちづくり」です。蒔かれた一粒の椎の実が、風雪のなかで大きな椎の木に成長するように…。57年の歩みで、地域の人たち、福祉団体、社会活動団体、行政等関係機関から得られた信頼感が大きな所産になっています。尽力された先達の方々に感謝です。私たちは、連続と続いた歩みの初心と、親の会という原点を見失うことなく、アクティブにチャレンジしていきます。

### 読者へのメッセージ

#### 「心の拠りどころ」

「この子らに世の光をでなく、この子らを世の光に」。この言葉をご存知の方は多いと思います。私たちの心の拠りどころです。今、私たちは、幼児期から老年期までライフステージごとに福祉のグランドデザインをつくろうとしています。皆様からアドバイスをいただけないでしょうか。事務所は前田利家が築城した小丸山城址公園に近いところ。お立ち寄りください。



#### ■データ■

#### 特定非営利活動法人七尾鹿島手をつなぐ育成会

事務所：石川県七尾市小島町イ1番地1

大谷済美センター内

電話：0767-52-0177

FAX：0767-52-0177

メール：ikusei\_nanaka@outlook.com

ホームページ：http://nanaka-ikusei.qee.jp/

県からのお知らせ

# INFORMATION

## あいむでWi-Fi（無線LAN）が使えるようになりました！

石川県 NPO 活動支援センター あいむでは12月より利用者向けに無料のインターネット接続サービス「FREESPOT」を開始しました。

【利用方法】インターネット接続には、「ゲスト方式」と「メール認証方式」の2通りがあります。

〈ゲスト方式で利用の場合〉

認証の有効期間は、10分間です。10分経過時または、再接続時は、再度認証が必要です。再度ゲスト方式で使用するには、前回利用時から3時間経過しないと利用できません。

〈メール認証方式で利用の場合〉

メール認証方式では、メールアドレスを入力していただきます。送信されたパスワードを入力することで認証されます。認証の有効期限は最大6ヶ月です。



## パネル展示コーナーで日ごろの活動をアピールしてみませんか？

石川県 NPO 活動支援センター あいむ内に、ボランティア活動を行っているみなさんの活動内容をパネルやポスター、写真などで紹介する『パネル展示コーナー』を設けました。

【利用できる方】 県内で活躍されているNPO・ボランティア団体

【展示期間】 原則2週間（各団体で展示作業を行ってください。）

【展示内容】 NPO・ボランティア活動の広報及び周知に関する内容のもの

【パネルの利用】 あいむにあるパネルを最大5枚まで利用することができます。

☆パネルの大きさ：A1サイズ 594mm×841mm

### 【お問い合わせ】

石川県NPO活動支援センター あいむ  
〒920-0961 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ 7階  
TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559  
E-mail: npo@pref.ishikawa.lg.jp

## 役員の登記の手続きが変わりました（平成27年2月27日から）

### ○代表権を持った理事が辞任する場合の添付書面が追加されました

代表権を持った理事（登記所に印鑑を提出した方）の辞任による変更の登記の申請書には、代表権を持った理事の実印が押された辞任届とその印鑑証明書を添付するか、代表権を持った理事の登記所届出印（法人の実印）が押された辞任届を添付する必要があります。

### ○役員欄へ婚姻前の氏を記録できるようになりました

代表権を持った理事又は清算人の就任等の登記の申請をするときには、婚姻により氏を改めた理事又は清算人（その申請により登記簿に氏名が記録される方に限り）について、その婚姻前の氏をも記録できるよう申し出ることができるようになりました。

詳しくは法務省のホームページをご覧ください。 [http://www.moj.go.jp/MINJI/minji06\\_00085.html](http://www.moj.go.jp/MINJI/minji06_00085.html)